

## 4 調査結果のまとめ

### (1) はじめに

本章の2と3では、各設問についての回答状況を示しましたが、学校調査においては、「学校に整備されているネットワーク機器の状況」「インターネットの接続状況」「ネットワーク運営組織の設置状況」「情報教育等にかかわる校内研修の実施状況」「ネットワークの教育利用上の課題」「京都みらいネットに希望するサービス」の六つの項目について、教職員調査においては、「パソコンやインターネットの活用や研修についてのイメージ」「パソコンやインターネットの利用状況及び教育効果」「インターネット等を教育利用するときに大切だと思うもの」「インターネット等を教育利用するときに情報モラル等の教育で大切だと思うもの」「京都みらいネットに希望するサービス」「インターネット等を活用した教育を進める上での課題や必要な研修」の六つの項目について、回答状況の結果から見られる特徴や傾向等をまとめました。

### (2) 学校調査のまとめ

学校調査において、府内学校の全体的な状況や課題を校内LANなどの情報通信ネットワークの構築状況や活用状況等が分かり、学校が情報通信ネットワークの教育利用のために何を必要としているかが分かりました。学校調査の回答者としては、学校の情報教育担当者又は管理職が記入されると予想していましたが、ほぼ予想どおり回答者のほとんどが情報教育担当者又は管理職でした。また、回答者の9割強がコンピュータの利用経験、6割強がインターネットの利用経験があり、パソコンの利用に慣れた方が主に回答されていることが分かりました。

#### 「学校に整備されているネットワーク機器の状況」

学校に整備されているネットワーク関係機器については、パソコンは、多くの学校で導入されていますが、校内LANなどのネットワークは、高等学校を除いて、整備されている学校が少ないことが分かりました。これからの学校の施設整備の課題として校内ネットワークの構築が考えられるため、本研究資料の資料編に「学校におけるネットワークの構築」として校内ネットワーク敷設の際の注意点をまとめました。

#### 「インターネットの接続状況」

京都みらいネットとのダイヤルアップ接続はISDNからのみ可能ですが、ISDNの設置率は小中学校で65.4%であり、予想を大きく上回る結果となりました。アナログ電話回線からISDNへの移行が可能であるため、ISDNの新設も含めて学校におけるISDNの敷設は、学校へのインターネットの普及とともに今後増加していくものと思われます。

インターネット接続については、平成10年9月末で35.3%の学校が接続し利用しているという回答でしたが、その後接続した学校があり、平成11年3月現在では、169校、約4割の学校が京都みらいネットと接続しています。

#### 「ネットワーク運営組織の設置状況」

学校としてネットワークの活用を進めるためには、校務分掌などの組織的な位置付けによる運用が必要であると考えられます。57.4%の学校でネットワーク担当者が決められています、校務分掌上での位置付けがある学校は35.7%であるという回答結果でした。今後の学校におけるネットワークの普及の中で増加していくものと考えられます。

#### 「情報教育等にかかわる校内研修の実施状況」

校内における研修については、85.9 %の学校が情報教育に関する何らかの校内研修を行っていることが分かりました。またパソコン操作に関する基礎研修だけでなく、インターネットなどのネットワークに関する校内研修が多く学校の取り組まれていることも分かりました。

#### 「ネットワークの教育利用上の課題」

回答が一番多かった課題は、校内研修の充実を含めネットワーク活用のための様々な研修が必要であるというものでした。また、ネットワークを指導できる者がいないという回答も多くあり、今後の情報教育の研修の急務となるものと思われます。

#### 「京都みらいネットに希望するサービス」

「教職員全員が電子メールアドレスをもつ」「メーリングリストの設定」などの電子メールの利用に関する希望が一番多く、次に「リンク集の充実」「活用事例の紹介」などの希望がありました。こうした希望を踏まえて、拠点の運用をより充実したものに進めていきたいと考えています。

### (3) 教職員調査のまとめ

教職員調査においては、多くの教職員が情報通信ネットワークの教育利用に関して、教育効果があり、コンピュータや情報通信ネットワークの利活用を自ら行いたいという意志を持っていることなどが分かりました。しかし、情報通信ネットワークそのものが学校においては、新しい技術であるため、十分な知識のある教職員が少ないということが分かり、ネットワークに関する資質の向上や指導者の育成が大きな課題であることが分かりました。

#### 「パソコンやインターネットの活用や研修についてのイメージ」

この設問においては、単純集計だけでなく教職経験年数とクロス集計をとり、その結果をカイ二乗検定して分析を行いました。その結果、予想とは異なる結果が現れました。予想では教職経験年数が少ないほど、すなわち若いほどコンピュータやインターネットを授業に取り込みやすく、設問に対して肯定的な考えが多いと考えていました。しかし、結果は、11年目から20年目の教職員に肯定的な回答が一番多く、次に20年目以上の教職員であり、最後に10年目以下の教職員でした。

このことがどういう事情によるものかということは、この調査の数値結果だけでは分析できません。今後、各学校や地域等においても、個々の教職員の情報活用能力の状況や授業改善への取組状況とも併せて検討していただきたい調査結果だと考えています。当総合教育センターとしても、インターネット活用等の講座と教科教育に関する講座の両側面から、更に研究していくべき課題であると考えています。

#### 「パソコンやインターネットの利用状況及び教育効果」

回答者の9割がパソコンの利用経験があり、7割がインターネットの利用経験があると回答しています。パソコンの利用時間が50時間以上という回答者が4割あり、校務等によるパソコンの利用が一般化しているものと思われます。また、どの校種においても利用しているサービスの1位はWWW、2位は電子メールであり、これらがインターネットを利用する際の中心的な利用方法となっていることが分かります。インターネットの教育効果についても1位はWWWによる情報収集、2位は電子メールによる交流をどの校種も効果が高いと考えていることが分かりました。

「インターネット等を教育利用するとき大切に思うもの」

この項目と次の項目の設問は、回答の1位から3位に順に3, 2, 1の重みを付けて集計を行いました。すると「情報を主体的に活用できる資質を身に付けさせる視点」が一番多く3割強、次に「情報モラルに関する知識を身に付けさせる視点」と「他の教科や教育活動との連携」が約2割、「情報活用のためのハード・ソフトに付いて基本的な理解をさせる視点」が約1割となっています。情報活用能力の基本でもある情報を主体的に活用できる能力と情報モラルに関する知識がこれからのネットワークの教育利用の要となるものと思われま

「インターネット等を教育利用するとき情報モラル等の教育で大切に思うもの」

「プライバシー等の個人情報の保護」が約4割、「ネットワーク利用上のマナーやエチケット」が2割強、「コンピュータや情報のセキュリティ」と「ソフトウェア等の著作権の保護」が2割弱という回答結果でした。情報発信や情報交流がインターネット等を利用した教育の中心となることが考えられることから児童生徒の個人情報の保護が一番大切であり、次にマナーやエチケットが大切であると考えられていることが分かりました。

「京都みらいネットに希望するサービス」

学校調査の回答とほぼ同じ内容で「活用事例の紹介」「教職員一人一人がメールアドレスを持ちたい」(これについては、拠点では開設時から希望する教職員全員に個別の電子メールアドレスを発行しています。)  
「児童生徒用リンク集の充実」「アクセスポイントの増設」「技術面でのサポート」などの希望がありました。

「インターネット等を活用した教育を進める上での課題や必要な研修」

回答の内容は、大きく三つに分かれました。一つ目は、教職員の指導力の向上のための研修が必要であるという意見です。二つ目は、設備の充実についてです。三つ目は、学校でネットワークの推進をするための要となる指導者が必要であるという意見でした。回答の結果から情報教育に関する校内研修やセンター研修が、今後の学校におけるネットワークの教育利用の要となるものと思われま